
ポケモンレンジャー物語

ブルーアイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモンレンジャー物語

【Nコード】

N6097K

【作者名】

ブルーアイ

【あらすじ】

オリーブ地方にやってきたポケモンレンジャーミナミとナツヤそこで遭遇した三人組との戦いで……

ミッション01オリビアを偵察せよ！

これはミナミを主人公とするポケモンレンジャー物語である……
今日はナツヤとオリビア地方を偵察しに行った

ナツヤ「平気だつて前向きに行こう」

ミナミ「その超超超超前向きはどこからくるのよー！」

ナツパーズ女「待ちなさいラティオスにラティアス」

ミナミ「！！」

ナツヤ「！！」

ナツパーズ男A「逃げられてしまいそう……」

ナツパーズ女「セメント！何弱気になつてるんだよ」

ナツパーズ男B「そろそろ疲れた」

ナツパーズ女「何を言つてるの！！ハツポケモンレンジャー」

ナツヤ「出たなポケモンナツパーズ」

セメント「まあかわいいこがいること若いのによくやるねー」
ナツパーズ女はセメントを殴った

ナツパーズ女「まったく・・・2人ともやっておしまい」
ビームを発射した

ナツヤ「よっと・・・がんばれムクホーク」

ミナミ「アナタ達・・・ラティさん達をどうするつもりなの」

ナツパーズ女「名前だけ名乗ってあげるアタシはレル」

ナツパーズ男B「ワイはドガイ」

レル「さあやっておしまい」

ナツヤ「ムクホーク体当たりだ」

セメント「わーーーー」

ドガイ「ひーーーー」

レル「何をやってるんだよ」

レッドアイ「どうやらコイツらではダメなようだな」

レル「あっレッドアイ様」

セメント「私達ががんばりましたけど・・・強すぎて」

ミナミ「フンツアナタ達・・・がんばってないわ」

レル「アンタ・・・なんですってそんなことはない・・・ですよ」

レッドアイ「リーダーであるお前が責任を取ってもらう」

レル「ええええっそんな……」

セメント「ごめんなさいレル様」

レル「くっ……後でタダじゃ置かないよ」

レッドアイ「でも邪魔なヤツらだ」

ミナミ「残念ねアタシ達は負けない……レッドアイ……かわいそうねこんなダメな部下がいて」

レッドアイ「今……覚悟の上でその言葉を放ったんだな」

ミナミ「覚悟なんかしなくても平気よ」

ナツヤ「何か仕掛けてくるぞ」

レッドアイ「くらえ」

ナツヤ「しまったムクホークが疲れてる」
ババババツ

ミナミ「きゃああああつ」

ナツヤ「うわあーーーーー」
2人は海に落ちた

レル「さすがレッドアイ様」

レッドアイ「おだててもダメだぞ」

おだてブタ「ブタもおだてりゃ木に登る」

レル・セメント・ドガイ「どてーー」

レル「てつととと危ない危ない落ちる所だった」

セメント「これは一体なんの小説やら」

ミナミ「くっくっは」

ボイスナビ「どうやらドロップ島・・・オリビア地方のようです」

ミナミ「ナツヤ?」

ナツヤ「ハアすごかったまっいか」

ミナミ「よくないわよまったくさっきの三人のおかげでリーダーとの戦いひるんだみたい」

ナツヤ「なんだ」

ウクレレ「ぴっちゅ」

ミナミ「わあっ かわいい」

ボイスナビ「ピチューが警戒してます」
バチイイイン

ミナミ「いいわ助けてあげる・・・キャプチャ・・・オン」

ウクレレ「ピー」

ミナミ「OK」

ナツヤ「でも様子が変だ」

ミナミ「そういえばこの島にポケモンがない!？」

レル「いいねえこの操りコテは」

セメント「レル様ウクレレちゃんはいませんね」

レル「でも島中のポケモンを捕らえることができたしいい収穫だよ」

ドガイ「これさえあれば」

レル「青い伝説のタマゴを手に入れることができるかも」

ミナミ「あっさっきの」

レル「まあ生きてたのね」

セメント「レル様ここは逃げましょう」

レル「こんなヤツらの相手してるヒマなんてないもんね」

ミナミ「待ちなさいやってみせてピチューー」

ウクレレ「ぴっちゅ」

ポロロン

レル「あらほしかったウクレレちゃんじゃない」

ウクレレ「ぴっちゅ!?!」

レル「そうか仲間か……しらないよアタシ達……まあアイツらの仲間になっただんだら用済みだよ」

ミナミ「ああっ」

ナツヤ「ああっ逃げられちゃた」

ミナミ「ったくナツヤ」

ナツヤ「えっ……」

ミナミ「何もやってないじゃないの……でもどこ見渡しても海ね」

ナツヤ「一番高い所に行ってみない？」

ミナミ「島があるわ……ただ」

ナツヤ「遠いなー泳いでいくわけにもいかないし」

ブッカー「お前達レンジャーだな」

ナツヤ「アナタは？」

ブッカー「ナナメ村のブッカーじゃポケモン達がいなくなったと思ったら変なユーフォーにのった三人組が逃げていった」

ミナミ「きつとさっきのかわ」

ナツヤ「実は……」

ブッカー「そうか大変じゃたな」

ミナミ「でもアタシは許さないこのピチューを」

ブッカー「それはウクレレだ・・・綺麗な音色で心を癒してくれる・
他のポケモンには引けないのにこいつは
ポロローン

ウクレレ「ぴちゅ
」

ミナミ「かわいい」

ブッカー「まあナナメ村に行くと良い船を出したる」

ミナミ「ここがナナメ村」

ナツヤ「陽気な島だな」

ミナミ「楽しそうね・・・」

ラーフ「大変森が・・・変なユーフォーに乗ったヤツらに襲われち
やた」

ミナミ「ナツパーズだわ」

ボイスナビ「ミッションです」

ミッション02チークの森からナツパーズをおいだせ！（前書き）

題名つろ覚え

ミッション02チークの森からナツパーズをおいだせ！

ラーフ「アックスさんが……帰ってこなくて」

ミナミ「あっ」

レル「ポケモンをたくさん手に入れたからライコウの石碑を手に入れるのは楽勝かもね」

セメント「おやつレンジャー」

ナツヤ「何をしてるんだ！」

レル「フフツ……べつに悪い事なんかしてないよ」

アックス「違うんだライコウを呼び出す石碑を使うんだ」

レル「フフツこれさえ手に入れば……じゃあね」

ミナミ「あっ」

アックス「くっ」

ラーフ「アックスさんっ」

ラーフは追いかけていった

「ミナミ」ラーフくん危ないわ

ウクレレ「ぴゅちゅ

「ミナミ」ウクレレ!?

ナシヤ「やたらと暗いどろくつだな

ウクレレ「ピッピ

レル「あらアンタ……まだ仲間の事思ってるの？ラムパルドや
っっておかしいー」

ウクレレ「ぴっちゅーー」
ガッシャン

ラーフ「ひどい・・・ウクレレが」

レル「あらこれじゃあただのピチューねえ・・・ドガイにセメントスカタンクは!？」

セメント「もちろんですよレル様」

レル「ホホッこれでおしまい」

ミナミ「待ちなさい」

レル「レンジャー」

ミナミ「南国の海に輝く・・・ミナミ」

ナツヤ「夏の暑さは燃えさせる・・・ナツヤ」

ミナミ・ナツヤ「ポケモンレンジャー只今参上」

レル「くっ登場口上なんかしてむかつくっラムパルド」もろはのずつき「」
ドガアン

ミナミ「くっ・・・」

レル「全員集まりな」

したっば中のしたっばA「はい」

レル「ラムパルドはまかしたよ」

ナツヤ「ラムパルドはオレが引き受ける」

ミナミ「わかったわ」

レル「よおしこれで……」

ライコウ「ゴオー……ッ」

レル「ライコウ!?!」

ミナミ「どっして……」

ライコウ「ぐばあっ」

セメント「わわ……レル様お助けー」

レル「な……何やってるんだよ」

ドガイ「お助けをー」

レル「ハッ」
バチイイイン

レル「きゃあ」

スカタンク「ばしゅー」

レル「チツ逃げられたあああんでも……ライコウの石碑が手に
入っただけで十分」

ミナミ「逃がさないわウクレレ」

ウクレレ「ぴっちゅーー」

レル「きゃー!」

セメント「あらっレル様黒焦げに……」

レル「キイイイ! レンジャー許さないよメカの準備だよ」
ゴゴゴゴゴゴゴゴ

セメント「メカの準備時点ででんな話わかりませんな」

レル「でもコイツを捕らえたんだ」

ナツヤ「ミナミー」

ミナミ「ナツヤどうして……おばさんナツヤを放しなさいよ」

レル「おばさんですってええええええ!!! アタシ20歳よ小娘見

てなさい」

ミナミ「べっーだ」

レル「セメントやっーーーておしまい」

セメント「仕方ないですねーポチツとな」

レル「リザード炎でまる焦げにしな」

ミナミ「マリル「みずでっぽっ」」

バシユウハアアアン

レル「くっ」

ミナミ「解放してあげる……苦しみから……操られてる苦しむら」

キュウイイイン

ミナミ「キャプチャ・オン」

レル「ああっセメントポケモンじゃなくて」

セメント「突撃ーー」

ナツヤ「やめろー！ー！」

ミナミ「きゃーーー」

レル「これじゃあレンジャー物語じゃなくて三悪ナツパーズ物語だ

ね

セメント「女子高生の皆さんお待ちせしました」

ミナミ「おばさんとおじさんにできるわけないわ」

レル「なーーーーんですつてえ!!!このガキイイイ!!!チビ」

セメント「いやいや・・・16歳相手に」

レル「ポチツとな!」

セメント「あーーーーーそれは自爆スイッチ」

ドガアアアアアン

ミナミ「ナツヤーーーー!!!」

レル「でもレンジャーを1人捕らえた」

セメント「レッドアイ様からはきつとお墨付きが」

レル「フツアハハハハ残念だねレンジャー」

ミナミ「くっ・・・」

ラーフ「ピチューは大丈夫?」

アックス「なんてヤツらだ」

ブッカー「ウクレレは直ったよ」

ミナミ「……………」

ブッカー「でもヒドイのう……仲間を」

ミナミ「ナツヤ……一体あの後何が……………」

ボイスナビ「ミッションクリアですポイント50ポイント」

ミナミ「あれっカスタムが……………」

ボイスナビ「どうやら海水がジージー」

ミナミ「……………仕方ないか」

ウクレレ「ぴちゅ」

ブッカー「パートナーとして働いてみないかね」

ウクレレ「ぴちゅー」

ミナミ「やったあ」
ポロロン

ミナミ「アツハハ……レンジャーポーズ……ミッションクリ
ア」

ラーフ「カッコいい」

ブッカー「一晩寝ると良い」

ミナミ「いいんですか!？」

レッドアイ「なかなかじゃないかレンジャーを捕らえライコウの石
碑も」

レル「自己目的のスカタンクは損ねたもののラムパルドが見つかり
ました」

レッドアイ「やっぱりこの島には珍しいポケモンが生息してる……
目的達成だ」

レル「フフツアタシ達は裏切り者・・・本当の目的は海を汚して
マナフィのタマゴをこの地に呼んでタマゴを手に入れ孵らせて・・・
世界一美女の大金持ちになって・・・イケメン王子様と結婚して」

セメント「ずるいですよレル様だけ」

レル「海の神殿の海の王冠はお前達にやるよ海を操る事ができるか
らね」

ドガイ「それもいいですが・・・」

セメント「ご結婚を・・・」

レル「アンタなんかとするもんかい！・・・さてユーフォーを流
しな三人やればオイル漏れしてナマフィのタマゴが流れてくるくる」

セメント「ああっ夢に一步近づいた」

レル「ああああっ夢がもうすぐ叶ういやああんもっ美しいどん
なのかしら」

セメント「どんな男もイチコロでしょう・・・イヤいまでも最高
に美しい」

レル「あんまりホメるんじゃないよホホホッ」

次の日

ラーフ「大変ユーフォーのオイルもれで・・・海が汚れて青い玉が」

ミナミ「オイルもれ・・・」

ブッカー「マナフィのタマゴか」

ミナミ「えっ」

ブッカー「海を汚すと現われタマゴを孵した者の忠誠を誓い2つの願いを叶え海の神殿に連れて行き世界の支配者として認められるんだ」

ラーフ「それが・・・昨日の三人組が・・・」

ミナミ「なんですって！早くいかないよ」

ボイスナビ「Wミッションオイルもれを優先に止めてください」

「ミナミ」どつして・・・」

ラーフ「ここは水が少なくて海の水の塩を分泌して飲んでるんだオイルもれだと・・・」

「ミナミ」わかつたわ・・・（ナツヤが・・・いてくれたら・・・いまさら言ってもしょうがないわ・・・海を・・・タマゴを守らなきゃ）」

レル「海が汚いけど・・・見つけた・・・アタシ達がいただくよー」

ミッション03 ユーフォーをつりあげる！

ミナミ「……………」

ボイスナビ「水流が激しいですこれはポケモンによるものです」

ミナミ「あっ」

セメント「キングドラを暴れさせたらレンジャーも」

ミナミ「アンタは」

セメント「レンジャーレル様がタマゴを手に入れるまで足止めしてると」

ミナミ「かわいそうに……あんなに苦しんで……助けてあげる」

セメント「あっ無駄ですよ」たつまき「大きなかぜをともない吹き飛ばしますから」

ドガアアン

ミナミ「きゃあっ」

岩に体をぶつける

ミナミ「くっ」

レル「セメント来るんだよ！水流が激しすぎて……………」

セメント「えっでもキングドラはこちらに」

レル「違うんだよ!!!サメハダーが暴れて・・・ドガイだけじゃ・・・レンジャーをほっというてタマゴを取るのに集中しな!!!まったく」

セメント「はいーレル様ー」

ミナミ「させるものですか」

レル「アタシが相手だよキングドラ」りゅっのはどっつ
ドドドドドッ

ミナミ「きゃあああああー」

レル「レンジャーを海の底・・・海の彼方へ・・・流しな」なみの
り」
ババババッ

レル「水中じゃあ無理だろうねえ」

ミナミ「おばさま」

レル「くっレンジャーまだ生きてたのか・・・それは」

ミナミ「マントイン」はかいごうせん」

レル「はかいごうせん」

ギユウバアアアン

ドガアアアアアン

レル「くっ……」

ミナミ「うっ……」

レル「取った「あわ」」

ミナミ「あっきゃあああ
ウィンウィン

ボイスナビ「スタイラーの電源がかなり減りました回避してください」

ミナミ「ぐっこのままじゃもつとオイルもれが………ナツ
パズお願いがあるわこの先にオイルもれがあるらしいのそれをひ
きあげるだけでもいいでしょう」

レル「そんな嘘聞いたりしないよ」

ミナミ「だったら……意地でも通ってやる……サニーゴ」ミサ
イルバリ」「
バババババツ

レル「きゃああああっくっ………キングドラ……」

ミナミ「キャプチャ・オン」

レル「海の中で………早い………させるもんですかキングドラ」
はかいこうせん」「

ミナミ「くつやった」

レル「くやしいいいでもまだまだねハリーセン」どくぱり」

ミナミ「チョンチースタイラーの充……」
バババツ

ミナミ「きゃーー」
ドンッ

ミナミ「しまった……スタイラーは残り1……」

レル「終りだよ」みずでっぽう」

ミナミ「くつ……ケイコウオ」みずでっぽう」
バシユウ

ミナミ「キャプチャ・オン」

レル「くついやああんセメントドガイー……!!」

セメント「どうしました？」

レル「レンジャーに負けちゃたよーー」

ドガイ「水中でもラインを」

セメント「でもねタマゴなら手に入りました」

レル「まあ よくやったよお前達……もうアンタによつはないよ」

ミナミ「そのタマゴは・・・ハツヨーフォー・・・島の皆さんごめんなさいキバナア」たいあたり」「
ドガン

レル「いったー！ーごぼっ・・・しまった酸素・・・が・・・
・苦しい・・・」

セメント「ああっ酸素を分けますから早く上がらないと・・・」

ミナミ「わたしてもらっつわタマゴをそしたら助けてあげてもいいわ」

レル「くっ・・・ドガ・・・イ・・・レン・・・ジャーを・・・」

ドガイ「わかりました」

ミナミ「ちょっと・・・そこまでしてタマゴを・・・」

レル「・・・これを手に入れば・・・アタシは・・・
」

セメント「そんなご無理をなさらずに・・・」

レル「くっ・・・あと・・・もう少しさ」

ミナミ「ちょっとどきなさいよ」

ドガイ「レル様の指示以外で動きません」

ミナミ「くっ・・・ラブカス」みずのはどっ」「

レル「…………コボッ」

セメント「ああっ大丈夫で」

ドガイ「ぎゃーーーーー」

セメント「えええええええっ」

レル「!!!お前…………達…………何やって…………」
バシユウワーーーーン

ミナミ「ハイユーフォーのつりあげ完了タマゴも保護」

レル「ハアハアハア水着のままだけど…………メカの準備だよ」
ゴゴゴゴゴッ

レル「フフツレンジャー！スタイラーの電源はいいかな？」

ミナミ「ハッ」

レル「やーーーーーっておしまい」

セメント「セメントだけにセメントを流し込み」

ミナミ「これ以上海を汚さないで」

コップキットキャラ「セメエかい心を広くしようや!」

全員「こけーーーーー」

レル「セメント・・・やっーーーーておしまい」

セメント「セメントを」

ミナミ「あっ・・・ああやめて」

セメント「岩を」

ミナミ「きゃあっ・・・くっボイスナビ」

ボイスナビ「スタイラーは壊れましたビー」

ミナミ「どうして・・・」

レル「イタダキマーーン」

ミナミ「あっ」

レル「さあて今回はアタシ達の勝ち・・・」

ミナミ「くっ・・・こうなればウクレレ」

ウクレレ「ピッ・・・」

セメント「セメント攻撃」

ウクレレ「ピューー」

ミナミ「ウクレレ!!!くっ」

レル「じゃあかえろうか毎回毎回ドッガンって爆発するとなんの話かわからないからね」

セメント「ですなー」

レル「今日はがんばってくれたじゃないかセメント」

セメント「いやあーそれほどでも」

ミナミ「キャプチャ・オン」
バシユ

セメント「そこは」

ドガッアアアン

レル「何ディスクごときで壊れるんだよあーもう我慢できないスカポントン!!!!」

セメント「でもディスク……」

レル「まさかウクレレのポシエト……」

ミナミ「残念ね」

パアアアアアン

レル「まさか……タマゴが孵る瞬間じゃ……」

マナフィ「マナ?」

レル「うつつかわいいかわいい　ちょーーかわいい　ス・テ・キ
きつとアタシを世界一美しくかわいくしてくれるよね・・・そ
して不老不死になつてさ」

セメント「いやもとから不老不死だと思いますよだって三悪です
から」

レル「・・・そんなわけないよ」
きらーーん

ミナミ「ああっ」

レル「あらあらアタシ輝いてる？」

セメント「なんか変わりませんねー」

マナフィ「不老不死完了」

レル「えっ・・・じゃあ世界一美しくかわいくなるのは？」

マナフィ「もとから素敵だもの」

レル「　　あら・・・かなりいいんじゃないか　　だつた
らレンジャーを倒してくれるかい？」

ミナミ「ええええっくっ」

マナフィ「「ふぶき」」

ミナミ「くっ・・・アナタは海の守り神なんでしょ？どつして・・・

・・・なんで・・・」

セメント「これから・・・もう」

レル「もうハッキリ言ってしまえばいいじゃないかタイムボカンシリーズ二回目の勝利だって」

セメント「もうた私達の時代がはじまるのよーん」

レル「3話にして終わるなんて」

ミナミ「違うわあなた達の目的を終わらせてアタシの物語をちゃんとすすめるのよね」

レル「えっそうなのかい？別に悪がハッピーエンドならどうでもいいけど・・・退散だよ」

ミナミ「・・・海が・・・」

ブッカー「そうか・・・」

ミナミ「だから・・・とてもミッションクリアとはいえません・・・
・タマゴも守りきらなかったし」

ブッカー「イヤ無事じゃたし被害もそうなかったもつとひどかった
可能性もある」

「ミナミ」

ウクレレ「ぴっちゅ」

「ミナミ」そうよね・・・がんばらなきゃ

ミッション04むせんきちをかいほうせよ！

ミナミはパネマという少女と会い一緒にタルガというポケモンレンジャーに会うため家へと向かった

パネマ「アタシの家が……」
ゴオオオッ

ミナミ「何てこと……一体誰が」

レル「アタシ達で決まってるよ」

ミナミ「アンタ達は……」

レル「腹いせだよマナフィ言い伝えはなかったってね……でも強いからウケレレと同じようにパートナーさ……正直言ってセメント達より使えるね」

セメント「ひどいですよいつもメカを作ってるではありませんか」

レル「うるさいねー」

セメント「給料安いしー」

レル「ならレンジャーをやっ……ておしまい」

セメント・ドガイ「ワレワレサッサー！」

ミナミ「とにかく消化しないと・・・こんなヤツらにかまってる
ヒマないもの・・・ハツいた」
バシユ

ミナミ「キャプチャ・・・」

レル「ハイドロポンプ」

ミナミ「きゃ・・・別にアンタ達のポケモンをキャプチャしようと思
ってないわこの子の家が火事なのもうやめて」

レル「ははーんならもつと聞けないなその女の子を連れ去りな」

ミナミ「なんですって」

パネマ「助けてー」

ミナミ「家が・・・くつババアアンタ達」

レル「くつお前・・・えええええい」「ふぶき」
ふわああん

ミナミ「腕が・・・」

レル「フッフフ・・・どうだい？手足を凍りつかせれば抵抗できな
い・・・レンジャーはそれが欠点でも・・・ポケモンを使えばど
んな困難も乗り越えられる・・・キャプチャなどにたよらず操って
ね」

ミナミ「くつ・・・」

セメント「ポケモンはあらゆる道具ですからねえ」

ミナミ「違うわポケモンと人は共存して生きてる・・・道具なんて・・・」

レル「ポケモンはこの上ない最高の道具「バブルこうせん」」
シュ

ミナミ「消えた!?!まさか三つの色と太陽で無色透明に・・・姿を・・・」

レル「終りだよ」

バチバチ

ミナミ「くっ」

パネマ「いやーお家が」

????「ブイゼル達「みずでっぼう」」

するとセメントとドガイをタツクルする

セメント・ドガイ「わーー」

レル「な・・・何やってるんだよ!!!」

タルガ「娘に・・・手を出すなヒノアラシ」かえんほつじや
ゴオツ

ミナミ「アンタ達・・・」

セメント「ゴンベ」すてみタツクル」

ドガイ「パチリス」10万ボルト」

ミナミ「ウクレレちゃん」

ウクレレ「びっーーーーーびっちゅーーーー!!」

レル「きゃあああああああっ」

セメント「しびしびーーーー」

ドガイ「わわわわわわわわーーーーあああわあわ」

タルガ・ミナミ「キャプチャ・オン」

キュイイイン

レル「くっ・・・覚えておきな!セメント!ドガイ!行くよ」

タルガ「大丈夫だったか?」

ミナミ「ハア・・・助かりました」

パネマ「ありがとう」

レイラ「アタシ怖く何もできなかったわ」

タルガ「何ッ無線基地にナツパーズが!?わかったすぐ行く」

パネマ「もしかして……」

タルガ「ミナミくん……ミッションとして協力してくれないか？」

ミナミ「もちろんよ」

ミナミ「ここが……無線基地」

タルガ「入るぞ」

エリートナツパーズ女A「お前達は……」

タルガ「無線基地を・・・どうすると言っただ」

エリートナツパース女A「別にここは通さないわよ」

ミナミ「何かくる」

ミズゴロウ「ゴツリヨ」

ミナミ「10匹!!多ッ」

タルガ「手分けしてキャプチャだ」

エリナツパ女A「させないわよ」「みずでっぽっ」

ミナミ「きゃあっ」

タルガ「ぐっ・・・」

ミナミ「この攻撃のタイミングがずれててディスクさえもだせない」

タルガ「あの時の三人組ときとはケタが違う」

レル「今・・・反省してもらっよ」

ミナミ「ナツパース三人組」

レル「メカでやっーーーーておしまい」

セメント「レッドアイ様は確か無線基地のアンテナを・・・」
アンテナを壊した

タルガ「お前らー」

セメント「ではミサイル攻撃ポチっとな」
ドゴンドゴンドガン

エリナツパA女「くっ・・・アタシの邪魔しないでよ」

レル「フンツたいしてかわいくないくせにさー」

エリナツパA女「なななっ何よ偉そうに」

レル「あらら・・・偉いのよー」

タルガ「今のうちに」

ライコウ「がおー」

ミナミ「聞いたことある声ね・・・」

ミナミ「やっとついた・・・充電は平気かしら・・・パチリス」

バチイイン

ミナミ「OK全回復」

タルガ「ひどい・・・こんなに壊されて・・・修復不可能だ」

ミナミ「許さない」

雷が落ちた

タルガ「なんだっ」

ライコウ「がおおーーーーーー」

タルガ「ライコウ・・・コイツ・・・いらだちを隠せないようだ」

ミナミ「後ろに・・・」

レル「レンジャー・・・」

セメント「レンジャーじゃなくてレンジャー様お助けを・・・」

レル「バカッ何いつてるんだよこの操りコテを使えばどんなポケモンでも・・・」

きいいいいん

ミナミ「やめるのよ」

タルガ「お前らー」

ドガイ「抑えつけ・・・投げとばすー」

レル「フフツ大部苦しいだろう・・・ただ・・・ちよと苦しいだけだからね・・・」

ミナミ「ウクレレ」

セメント「あっそろそろ」

レル「ライコウ「かみなり」」

ウクレレ「ちゅうつうつうつ」

ウクレレは大ダメージ受け倒れた

ミナミ「ウクレレ・・・ディスク」

レル「そんなの「かみなり」だ」

ミナミ「くっディスクが粉々に・・・予備はあるけど・・・これじゃ・・・」

タルガ「ゴローン「いわなだれ」」

レル「「ほづでん」」

セメント「しびー」

ドガイ「があー」

レル「スカポントン！・・・何しびれちゃてるんだよ！・・・」

ミナミ「きゃーーっ」

タルガ「ぐっ……」

レル「わかったかい？ライコウのキャプチャなんて絶対できないと」

タルガ「くっディスク」

レル「かみくだく」

タルガ「くっ……ダメなのか……キャプチャは……」

レル「あきらめて帰ることだね……助かりたければ」

ミナミ「（でもライコウを……なんとしても助けたい……でもレルとライコウに気づかれずにキャプチャするには……アシストが必要でもゴローンとの戦い……全然歯が立たない……そうだディスクをライコウに集中を集めて……）」

レル「ディスクが来たね「かみなり」」

ミナミ「くっ」

レル「逃げるんじゃないよ……くっ……はずれまくって……ええい「ほうでん」」

セメント「レル様ったら絶縁服があるならいってくれましたらいいのに」

レル「アンタ達に言うもんかい！」

セメント「ひどいですねえー女子高生の皆さんどつおもわれます?」
レルはセメントを殴った

ミナミ「ぐっ……ディスクが壊れる覚悟で……助ける……ラ
イコウ」

バチイイイイン

ミナミ「キャ……キャプチャ……オン」
ドガアアアン

ボイスナビ「サインを登録してください」

ミナミ「これは?……うっ」
ミナミは倒れた

タルガ「おい大丈夫かしかりしろ」

レル「ああっなんでキャプチャ成功したんだよ……」

セメント「メカで逃げましょう」

レル「さてポチっとな」
ドガアアアアアン

セメント「自爆スイッチだったようで」

レル「スカポントン」

タルガ「爆発で無線基地が壊れ始めてる」

ミナミ「くっ……逃げましょう」

タルガ「平気か」

ミナミ「……微妙」

レイラ「お父さん……ハツミナミさん大丈夫でしょうか？」

パネマ「ヒドイ……傷だらけ……」

タルガ「オレは大丈夫だ……」

ミナミ「くっ」

ミナミは倒れた

パネマ「わわわっ」

はできないもののいい情報を手に入れる・・・エリート昇格だ」

レル「わあっ ありがとうございませう レッドアイ様最高」

セメント・ドガイ「バンザイ」

ナマフィ「ニコッ」

ミッション05古い屋敷を調査せよ！

ミナミはイマチ再開してサマヨールの森を突破して古い屋敷の本を手にとろうとしていた

ミナミ「わあっ素敵お化け屋敷」

イマチ「よく怖くないねー」

ミナミ「フンッお化けなんて大抵ポケモンとの見間違いよゴーストタイプのポケモンは人間に驚いているだけなの」

イマチ「そういうものかなあ
がっしゃーーん

イマチ「お皿がーーーー帰るーーーーー」

ミナミ「イマチ待ちなさい」
どーーん

ミナミ「床に穴！？なんなの」
ガッシャン

ミナミ「ウクレレ」「10万ボルト」
バチイイイン

ミナミ「こんなにお皿が」

ボイスナビ「上から来ます」

ミナミ「あっ……エーフィ「シャドーボール」」
バババツ

ミナミ「一体なんなの？」」

レル「どうようしてるねえ……お皿も床に穴も迷路も門が開か
なかったのもアタシ達の仕業」

セメント「どこさがして見つかりませんね本が」

レル「ここまでくるのにさぞかし時間がかかるはず……フフフッ」

セメント「あのうブルーアイちゃん結婚は」

ブルーアイとレルはセメントを蹴った

レル・セメント「わけのわからないことってんじゃないよ……!!
!……!!」

ミナミ「かすかに・・・声？イマチがいるのかも・・・イマチー
ー！ー！ー！ー！ー！ー！」

レル「ハッ・・・コホンとにかく本を探そう」

ミナミ「ウクレレちゃん音をだしつつ行ってみたらイマチがいる」
とろわかるかも」

ウクレレ「ぴっちゅ
ポロローン

ミナミ「イマチーー聞こえるー？」

ポロローン

ボイスナビ「危険ですお皿が」

ミナミ「あっ」

ウクレレ「ぴちゅ」

バチイン

ミナミ「油断もスキもない」

レル「フツイマチくん……おもしろいわこれを利用して……」

ブルーアイ「リーダーの言うこと聞きなさいよ」

レル「アンタなんかの言うことなんか聞けないよアタシはレッドアイ様が好きなの」

ブルーアイ「何よ」

セメント「ケンカしないブルーアイ様にレル様」

レル「こんなヤツに様付けしなくてもいいよ」

セメント「えええっ」

レル「アタシの言うことが聞けないっていうのかい」

セメント「いやいやそれはないですよ」

レル「じゃあアイツよりかわいくて美しいかい？」

セメント「えっ……」

ブルーアイ「アタシの方がずっとかわいいわ」

レル「アタシだよ」

ブルーアイ「アタシよ」

レル「さあどっちだい？」

セメント「えーとゼンダマンを思い出す……」

レル「変なこと思い出すんじゃないよ」

ミナミ「いたナツパーズ」

レル「あああっお前のせいでレンジャーが」

ミナミ「アナタ達も本狙ってるのね」

ブルーアイ「ナツパーズリーダーよナツパーズで一番かわいくて美

しいわ」

レル「それはアタシだよ」

ブルーアイ「違うわ」

セメント「とにかくレンジャーコイツはアナタの？」

イマチ「ミナミさん助けてくれ」

ミナミ「イマチー！」

ブルーアイ・レル「アタシの役目がー」

セメント「とにかく返してほしければおとなしくここから立ち去ってほしいと」

レル「さあどうするかい？本とイマチどっちがほしいか？」

ミナミ「どっちもほしいわよだって・・・レンジャーだもの」

ブルーアイ「だったらそのスタイラーを壊してやるわメガニウム
「つるのムチ」「
バシィン

ミナミ「きゃ・・・」

ブルーアイ「のしかかり」
ドシンッ

ミナミは倒れた

イマチ「ミ……ミナミ……さん？嘘……でしょ……そんな」

レル「やったー！勝ったー！次からアタシ達……」

三人「主役だー！ー！ー」

ブルーアイ「フンッこんなヤツにてこづってたの？」

レル「でもあのライコウを……」

ブルーアイ「アンタの操り具合が悪いんじゃないのー」

レル「ななななっなんですって」

ミナミ「キャプチャ・オン」

レル「えー！ー」

ブルーアイ「どうして」

ミナミ「あっこん本まさか」

レル「奪われたじゃない・・・アタシ達もー知らないよお前達いくよー」

ミナミ「ウクレレ」

ウクレレ「びっちゅー」

バチイイイン

ブルーアイ「きゃああっしびれる」

イマチ「すごい・・・倒れた振りしてキャプチャしたなんて」

レル「待ちなレンジャー」

セメント「私達メカやらないと気がおさまらないの負けても全国の女子高生・・・イヤ全国の皆さんが待ち望んでるはずですから」

ドガイ「レンジャーのスタイラーも続かないはず」

ミナミ「何をしよう」と

レル「本手に入れた」

ミナミ「返しなさいよ」

レル「何て書いてあるんだい？天才セメントなら読めるだろう？」

セメント「えつと・・・さっぱり」

レル「えええつこんなの本当に使えるのかい？」

ブルーアイ「とにかくレッドアイに持っていくのよ」

レル「・・・わかってるよ」

ミナミ「なーんて本物はこちらよ」

レル「なんですってええいあんなスタイラー壊しちゃいなマナフィ

「バブルこうせん」

バチン

ミナミ「きゃ・・・スタイラーが・・・」

レル「勝ったさあそれを渡してもらおうよ」

ウクレレ「ちゅー」

放電した

ドガアアアアン

レル「なんでこんなことになるんだよー—————」

ミッション06 ナツヤを助け出せ！

レッドアイ「まったく・・・やられたとは・・・リーダーに責任を取ってもらつよ本当にそれでエリートか」

レル「はいごめんなさいレッドアイ様」

セメント「次こそは」

ドガイ「成功させてきます」

レッドアイ「じゃあレンジャーにナツヤとブルーアイの取引をしよう・・・シンバラの事も聞き出したし・・・スタイラーもムクホークも奪つたんだ・・・アイツには何も無い・・・それならいい」

次の日

ミナミ「ふああ・・・タルガ・・・さんおはよう」

レル「レンジャー」

ミナミ「あつ・・・おばさま」

レル「くつ・・・いい加減や・め・てイヤなんだよだいたいアタシは20歳!」

ミナミ「それだけかしらおばさま」

レル「アタシはレルだよ！・・・レッドアイ様からの報告だよ」

ミナミ「何ッ」

レル「ブルーアイを返してもらおうかわりにナツヤを差し出すだって」

ミナミ「嘘・・・本当」

セメント「そんなことよりブルーアイ様を出してーかわいいからレルはセメントを蹴った」

レル「アタシよりかわいいというのかい？」

セメント「いたたたっ・・・それは・・・（ゼンダマン思い出すー）」

レル「とにかくブルーアイを差し出すんだよ！！1つっておくけど・・・今晚中にできない場合はもう・・・虫の息になるってね」

ミナミ「何どうして・・・何がなんだかわからないわ」

レル「行くよ」

ミナミ「・・・」

ブルーアイ「そう・・・フンツさっさと放してほしかったわ」

イマチ「かなりの強情張りだよこの人」

ブルーアイ「何よアンタアタシをなめてるの!？」

イマチ「えっなんでこうなるの?」

ミナミ「わかったから行きましょっね
手を引っ張った

ブルーアイ「痛いじゃないやさしくあつかいなさい」

ミナミ「なによお婆さん」

ブルーアイ「何ですって」
上からレル達は見ていた

レル「あんなヤツと一緒にだと疲れそうね」

セメント「ナツヤくんもよく耐えてた」

ミナミ「歳はいくつかしら」

ブルーアイ「女に言うなんて・・・とにかく23歳・・・」

ミナミ「ここが約束の場所……」

ブルーアイ「あっエンテイの石碑」

レル「それはアタシ達がいただくよ」

ミナミ「あっアンタ達」

セメント「はいOK」

レル「これでエンテイを呼び出せるのね」

ミナミ「!?!」

レル「エンテイライコウ」

ミナミ「レンジャーサイン……イヤなんでアナタ達がスタイラーを……」

レル「レンジャーを襲いなエンテイライコウ」

ミナミ「……」

ブルーアイ「アンタ達・・・レンジャーを倒そうつていつの」

レル「レッドアイ様に高く評価させてもらつたためにね」
ドドドドッ

レル「エンテイ「かえんほうしゃ」」

ミナミ「きゃ・・・なんて高温ディスクが出しにくくなつて・・・
熱でスタイラーが・・・」

レル「ライコウ「かみなり」」

ミナミ「わっ危ない」

レル「そこに「かえんほうしゃ」」
ゴオオオッ

ミナミ「きゃあああああ!?!」

レル「伝説のポケモン2匹・・・楽勝ね」

ミナミ「ディスクを出す・・・タイミングがつかめない」

レル「「かえんほうしゃ」に「10万ボルト」」

ミナミ「逃げよう」
バッ

ミナミ「岩が・・・」

レル「かみなり」
ドオン

ミナミ「きゃーーーーー!!!」

レル「フッフフ・・・」

ミナミ「ぐっ・・・ディスク」

レル「エンテイ「ほのおのキバ」
バンッ

ミナミ「あっ・・・ウクレレ」

ウクレレ「ぴっちゅ」

ミナミ「もう後がない・・・スタイラーの電源もギリギリ・・・
やっぱり2匹のキャプチャは無理なの・・・」

ナツヤ「前向きにがんばるんだ」

ちよいきつめぐるぐるまきのナツヤとレッドアイがいた

ブルーアイ「レッドアイ・・・聞いたわよアナタが・・・」

レッドアイ「まあそういうことだが・・・もう終りのようだよレン
ジャー」

ナツヤ「負けるなミナミ」

ミナミ「ナツヤ……」

????「そっだ」

レル「アンタは」

タルガ「ミナミオレもキャプチャに協力する」

ミナミ「はいゴローンエンテイに「いわなだれ」」

タルガ「マンキーライコウに「いわくだき」」

レル「「かえんほうしゃ」に「かみなり」」

ドガアアアアン

レル「伝説のポケモンと通常のポケモンとはケタが違うんだよ？人のスタイラーなんかぶっ壊しちゃいな「だいもんじ」」

ミナミ「くっ……」

タルガ「ぐうっ……」

レル「終りだよあきらめな「かみなり」」

ミナミ「ディスク」

レル「何ッわざと「かみなり」にディスクをぶつけた!？」

ミナミ「今よタルガ……さん」

タルガ「おうキャプチャ・・・」

レル「させますか突撃しな」
ドガアン

タルガ「ぐわあっ」

セメント「スタイラーまあすごいねこれは」

ミナミ「もらい」

レル「なななっ何やってるんだよスカポントン」

ミナミ「キャプチャ・オン」

レル「あっ・・・ごめんなさいレッドアイ様」

レッドアイ「リーダーのお前が何をしている!!」

レル「で・・・でも今のはセメント・・・」

レッドアイ「ああっ言い訳はいい」

レル「ああっリーダーやめたい」

セメント「あああっ本当にごめんなさいレル様」

レル「うううーースカポントン」

セメントを殴りまくった

ミナミ「あっ」

レル「くやしくて仕方ないよレッドアイ様は何故かアタシばかり責めてブルーアイの失敗は責めないんだよ！ヒドイと思わないかい？・・・だから怒りをお前達にぶつけるんだよ」

ミナミ「ええっ」

レル「ホラッポチつとな！！」

ドガアアアアアン

レル「お前達のせいで爆発したんだよーーーー！！！！！！」
2人を殴りまくった

セメント「ああっ今日はとにかく殴れらるいたいいたい」

ドガイ「力が強い・・・」

レル「くやしいくやしーーーー」

ナツヤ「・・・・・・・・」

ミナミ「気が付いたら真夜中よタルガ・・・さんの家で一泊したら？」

タルガ「オレの許可なく？」

ミナミ「許可しなさい・・・じゃなかった許可して」

タルガ「よかるっ」

ミッションオブブルーアイの作戦を阻止せよ！

女性「ハア・・・困った」

ナツヤ「どうしました？」

女性「夜変な音とともにユーフォーに乗った集団とおくれて三人組が洞窟に入っていったらポケモン達がいなくなったの」

ナツヤ「ナツパーズだ・・・タルガさんに・・・」

タルガ「やはり・・・石碑を奪うなど行動はきつと活発化してる・・・」

71

ミナミ「あの老人4人は？」

ナツヤ「遠慮ないな」

エドワード「おっと失礼してますぞレンジャーさん」

ミナミ「レンジャーじゃないわミナミよ」

ナツヤ「オレはナツヤ」

エドワード「私はエドワード・・・お医者さんだよ」

ドレス「ドレスです」

マジック「タネも仕掛けもこんにちはマジックです」

アックス「おっお前達・・・ナツヤくん無事だったのか・・・」

ナツヤ「はい」

ミナミ「アタシの活躍でねっ老人さん達」

ナツヤ「失礼だと思っよミナミ」

ミナミ「ミナミ様とおよびなさいホホホッ・・・」

ウクレレ「ぴっちゅ」

ポロローン

エドワード「・・・そろそろヤツがくるかな?」

ルート「ドレスさん達・・・」

ミナミ「わっマジかっこいい」

ルート「ぼくはルートです」

ドレス「アナタ2人の女性と付き合っているんだって?まったく1人にしなさいよ」

ルート「そんな・・・いいじゃないですか」

しばらくして外に出て行った

セメント「あれは結婚の約束をした人？」

レル「どうだい？かつこいいだろうアンタ達より一億倍マシな男だよ やさしいしいケメンだし・・・もう素敵」

ドガイ「ワイらはあんまり」

レル「同じ男だからわからないんだよ・・・ハッレンジャー」

ミナミ「ルートさん・・・」

ルート「アハハじゃあ意外と低レベルだね」

レル「キイイイレンジャーアタシのダーリンまで・・・許さない！！！」

セメント「デカイ声を出すと気づかれますよ」

ミナミ「この洞窟・・・案内ありがとうルートさん」

ナツヤ「なんだよー口調がていねいだよ（まだただただど・・・）」

ミナミ「乙女心をくすぐるかつこよさ」

レル「おもいしらせてやるよ・・・潜水艇へいらっしやい」

ミナミ「すごいガケ・・・ライコウのサイン・・・あれ・・・呼び
出せない・・・もっとていねいに・・・無理ー！！！」

ナツヤ「フワンテがいるよ」

ミナミ「キャプチャ・オン」

ナツヤ「これでわたれるね」

ミナミ「バカみたい」

ナツヤ「ここがアジト・・・」

ミナミ「変な不陰気・・・」

レル「レンジャー」

ミナミ「アンタは・・・」

レル「石碑を採取したレンジャーサイン思い知りなスイクン」

ミナミ「スイクン・・・いつの間に・・・」

レル「本気で行くよ」オーロラビーム」

カキイイイン

ミナミ「スタイラーが・・・」

レル「凍らせれば何もできない・・・」

ナツヤ「くっ・・・ライコウを呼べなかったのは石碑を持っていた
ナツパーズの方が優先してるからいわゆる親・・・」

レル「スタイラーはなかなかの道具ね・・・最初は気持ちだなんだ
と思ったけど・・・すばらしい」ハイドロポンプ」

ミナミ「くっ・・・ディスクとは別にスタイラーの電源が・・・」

ナツヤ「（ミナミ・・・提案があるディスクの勢いでキャプチャす

るのはどう？氷を跳ね飛ばして）」

ミナミ「（そんなに力があるわけないわ何より・・・できたとしても気づかれてスタイラーを壊されたら元も子もないわ）」

ナツヤ「（この方法しかないイチか・・・バチか・・・やってみないか？）」

ミナミ「・・・やってやるつもりじゃない・・・いくわよ）」
ギリイイイイ

ミナミ「・・・」
ドドドッ

ミナミ「（気づいてない）キャプチャ・オン」

レル「なっ」

パアアアアン

レル「い・・・つのまに・・・セメントにドガイ・・・退散だよ」

セメント・ドガイ「ワレワレサッサー」

バビューン

ミナミ「さてと氷跳ね飛ばすわよ」

バシユウバキイインバッドガン

ミナミ「フーアー」

ナツヤ「いそいそ」

ブルーアイ「まったく……」

レル「フンツ伝説のポケモンを操ってもあのレンジャーには通用しないんだよ」

ブルーアイ「何よ……オーダイルちゃんは違うわ」

レル「この足音……来たねレンジャーあのナツパーズの大群を退けたか……」

セメント・ドガイ「レル様ーブルーアイ様ー」

ブルーアイ・レル「お前達か……！！！！！！」
2人は蹴られた

レル「スカポンタン……！！」

セメント「レル様ーなんだかドンドン奥へ奥へと……」

レル「……フツ……」

「ミナミ」まあおばさま達

レル「うるさいこのドちびめ」

ブルーアイ「あなたあと4歳でおばさんってこと？」

ミナミ「違うわよーアンタ達はお・ば・さ・まだから仕方ないってことアタシは違うもの」

ブルーアイ「くっこのガキイ・・・」

セメント「女はどれも怖い・・・」

ナツヤ「今度は何を考えてる!？」

ブルーアイ「オーダイル「ばかぢから」

ドドドドッ・・・ガアアアアン

ミナミ「きゃあああーーーー!!!!」

ナツヤ「うわあーーーー!!!!」

ミナミ「電源が・・・」

ブルーアイ「電源より命の電源を気にした方がいいわよ」

セメント「うまいこという」

すると蹴られた

レル「イライライライラ」

ブルーアイ「「ハイドロポンプ」」

バシュウウウウ

ミナミ「きゃあっ」

ナツヤ「わああっ」

ブルーアイ「こんなものかしら……」

ミナミ「ぐっ……ディスク」

ブルーアイ「ひっかく」

バキィイイン

ミナミ「ウクレレ」

ウクレレ「ピチュ」

ミナミ「OKと」

ブルーアイ「遅いわ」「ふぶき」

ナツヤ「くっ」

ウクレレ「ぴー——」

ミナミ「ウクレレ!?!」

ナツヤ「オレ達の……身代わりに……」

ブルーアイ「くっ」「ハイドロポンプ」

ミナミ「ディスクをぶつける」

ナツヤ「電源は？」

ミナミ「キャプチャで・・・ギリギリ・・・いけっキャプチャ・オン」

ブルーアイ「そ・・・んな！」

セメント「あんなレンジャー」

ブルーアイ「したっば達あの作戦は実行するよ」

レル「何言ってるんだよアレは下手すればアタシ達も」

ブルーアイ「うるさいいんだよ開始しろ」

ゴゴゴゴゴッ

ナツヤ「何が起きるんだ」

ミナミ「きゃあっ」

ドオオオオオッ

ナツヤ「くっ……ミナミ……ミナミ……おい冗談だよなっか
りしろ」

ミナミ「……」

ウクレレ「ぴっ……」

ポロロン

ミナミ「くっ……」

ナツヤ「良かった大ケガでもしたとおもったよ」

ミナミ「いたた……でも他のは？」

ナツヤ「さあ……でも……水が入り込んでる」

ミナミ「いそいで抜けよう」

したっぱ「ブルーアイ様」

ブルーアイ「ハア……くっ……ここで終りが来たのかな」

セメント「あっかわいそう」

レル「そんなヤツほっというて脱出だよ」

ドガイ「つめたいですねー」

レル「アラッふたがあかない・・・ドガイ」

ドガイ「ワレワレサッサー」

ドドッ

ドガイ「どうやら沈んで・・・」

レル「えええええっ」

ブルーアイ「フンッ・・・やっぱり・・・アタシ・・・達は・・・
終り・・・だ」

ミナミ「聞いたわ」

ナツヤ「協力するよ」

ブルーアイ「そんなアタシ達は敵なのに」

ミナミ「・・・そうよねこころ逃げるのが先・・・」

ナツヤ「何言ってるんだよレンジャーだろ」

レル「それはそれであそこが開かないんだ」

ミナミ「・・・どうすれば・・・」

ナツヤ「ブルーアイを助けるよ!!!」

ミナミ「何よこれじゃあ世界が悪だらけになるわ」

ナツヤ「それで本当にレンジャーか！・・・ずっと思ってたんだけど・・・その性格直せよ」

ミナミ「何・・・だったら・・・アンタの超前向き・・・なんとかしなよ」

ナツヤ「それで迷惑かけたかよ前向きじゃないと・・・なんだって気持ちの問題じゃないか・・・こんな時くらい・・・プライドを捨てろよ」

ミナミ「アンタって本当にサイテー」

ナツヤ「お前の方がもっと最低だ」

レル「お前達こんな時にケンカするなんてやっぱり子供みただよ！」

ナツヤ「・・・ブルーアイを助ける」

レル「レンジャーだって心に悪の種が仕込まれてるみたいだね・・・」

セメント「あんなケンカは高校の時の男子の大喧嘩いらい初めてくらい・・・」

レル「何思い出話してるんだよ」

セメント」・・・あつ潜水艇のふたを押すじゃなくて引く」

レル「あつできたよくやって・・・きゃー水が・・・水がー
ー」

ミナミ「急いで脱出しないと・・・ウクレレアタシの頭に乗って」

タルガ「そうか・・・」

パネマ「2人とも浮かない顔だね・・・ケンカでもした？」

ミナミ「・・・」

ナツヤ「タルガさん・・・ミナミは・・・間違ってる！」

ミナミ「!？」

ミッション08ファイヤーを守れ！(前書き)

題名なんか・・・覚えてるかー！

レル「セメント！！ファイヤーの情報はついた？」

セメント「はあい古い屋敷にありましたよ」

レル「フッフアルデラ火山・・・やはり・・・行くよお前達」

ミナミ「！？あれは・・・ナツパーズ・・・三人組・・・ファルデラ火山・・・！？ファイヤー・・・タルガに知らせなきゃ」

タルガ「何ッ」

ミナミ「ファルデラ火山ならアタシが行きます」

タルガ「きつと準備体型だ・・・ナツヤといけ」

ミナミ「どうして・・・イヤです」

ナツヤ「オレもです」

タルガ「お前ら・・・レンジャーだろ！？自然を・・・平和を愛するならばやるのだ！！！」

「ミナミ」……了……解」

「ナツヤ」了解」

「ミナミ」フウ熱いなー！ー！2体のメカ!?!」

レル「昨日出て来れなかったもんだから……ねセメント……アタシはイヤなんだけど」

セメント「いやいやでも倒しますから」

レル「バカらしいでるっ」

セメント「えー！ー！っ」

レル「レンジャーサインツ……オーダーメガンニウム……
「のしかかり」に「ハイドロポンプ」
バシユウウウウ」

「ミナミ」く……ああああっ」

「ナツヤ」ギィ……」

ミナミ「ディスクにヒビが……」

レル「フフツ」はなびらのまい」「に」「ふぶき」「

ミナミ「逃げなきゃくっ……ヒトカゲ」かえんほつしゃ」「

レル「無駄だよ」「ハイドロポンプ」「

バシユウウツ

ウクレレ「ぴっちゅっつ」

レル「ウクレレちゃん……かわいいけど……痛い思いさせあけるよ」「ハードプラント」「

ミナミ「きゃ……きゃああああ……!……!……!」

ナツヤ「うわあああ……!……!……!」

ウクレレ「ぴちゅっつ」

ゴゴゴゴツ

レル「マグマが……お前達行くよスタイラーの電源は切れたようだ」

セメント「なんだがこれじゃあ愛されキャラじゃなくなって……」

レル「スカポンタン……!……!」

蹴られた

セメント「いったあ・・・」

レル「ものすごいマグマだね・・・とても生きてるわけ・・・！
？何ッコータスに乗って・・・壊れたのはディスクでウクレレの予
備を使って・・・」

ミナミ「くっ・・・ハア・・・ハアウ・・・ク・・・レ・・・レ」10
万ボルト」「
バチイイン

レル「きゃああああっ」

セメント「ああっレル様！！下は・・・マグマ」

ナツヤ「ハアハア何・・・やってるんだ」

ミナミ「なんで助けるのよ!?!」

ナツヤ「やっぱりミナミとは・・・わかり・・・あえない・・・み
た・・・い・・・だね」
ヨロツ

ミナミ「あっ」

ナツヤ「くっ・・・」

ミナミ「ナツヤ・・・この傷・・・ハードプラン・・・ト・・・
をまともに・・・くらった!?!」

ナツヤ「上の2人コイツ（レル）はいいのか？」

セメント「あああつレル様」

レル「くっ……お前達……早くレッドアイ様のとこへ」

ドガイ「ポケモンどうします?」

レル「あばれな!!!!」3匹

ミナミ「あつウクレレ……」10万ボルト

レル「ふぶき」

ミナミ「くっ……水蒸気が……」

レル「ハアハアレッドアイ様しばらくはきつとレンジャーは来ませんよ」

レッドアイ「そうか……」

セメント「大丈夫ですかね?メカに……」

レル「2体もいるなんて」

セメント「1体は遠隔操作なんで」

レル「でも負けるんじゃないよ」

セメント「ええっ」

レル「もう来たようだから」

ミナミ「レッドアイファイヤーを何するつもり!?!」

レッドアイ「リザードンさっさと逃げろぞ」

ファイヤー「ファイ」

ミナミ「目覚めた!?!」

すると三人組はおりた

セメント「わかりましたよ一発ガツンと・・・」

レル「自爆スイッチ」

ドガアアアアン

ミナミ「くっ・・・きゃーーーー!!!・・・空に・・・ムク
ホークが・・・キャプチャ・オン」
キイイイン

ミナミ「待ちなさいー」

レッドアイ「フフツ三人と・・・ミナミ・・・おもしろいくらえ」

ミナミ「ムクホークよけて」
シュン

レッドアイ「あの時とはいかないか・・・見違えるように強くなっ
たなミナミ」

ミナミ「・・・」

セメント「ではっハイライト式破壊光線ビーム・・・発射ポチっとな」

バッシュウドガアアアアン

ミナミ「キャアアアアッかすっただけなのに・・・なかなかすこ
いわね」

セメント「もう一度」

ドガアアアアッ

ミナミ「くっ」

レル「三方向攻撃だよ！

セメント・ドガイ「ワレワレサッサー」
ドガアアアアッ

ミナミ「くっ」

レル「逃がさないよさっきはよくもアタシに電撃をくらわせてくれ
たわね」

バシユウパアン

ミナミ「ぐっ・・・」

レル「くらいな」

バシユウウン

ミナミ「きゃああつムクホークが疲れてる・・・」

セメント「トドメを・・・」

ミナミ「うっ」

バシユウワアアアン

ミナミ「きゃあああつぐっ・・・ハアハア」

レッドアイ「もういいこれじゃあ終わらないリザードン」かえんほ
うじゃ「」

ミナミ「くっディスク」

レッドアイ「無駄だ」エアスラッシュ「」

シュパアアアン

ミナミ「くっ……」

レッドアイ「かえんほうしゃ
ゴオオオッ

ミナミ「きゃああっ……目の前が……暗くなってきた……」

ナツヤ「負けちゃダメだ」

レル「レンジャー」

ナツヤ「そういえば……なにか気づかなかった？」

レル「スタイラーが……」

ナツヤ「フフッ」

レッドアイ「何をやってる!?!」

レル「ごめんなさーい……電撃を受けて……」

レッドアイ「まったく……こまったもんだ」

セメント「レル様……コシヨコシヨ」

レル「いいねそれ」

レッドアイ「かえんほうしゃ」

ミナミは打ち落とされた

ナツヤ「ミナミ……」

レル「おっと……スタイラーイタダキマンっと……ナツヤって
言ったけ？スタイラーを2つも手に入れればいいもんだよ渡しな」

ナツヤ「なっ……」

レル「渡さないなら……このウザい女がどうなるか……」

ナツヤ「くっ……わかった」

レル「フフツホラ返すよ」

レッドアイ「かえんほうしゃ」

ナツヤ「うわーっ」

ドサッ

タルガ「何ッお前達……大丈夫か？しっかりするんだオイ……
オイ」

ミッション09サンダーを守れ!

ナツヤ「う……うん……ここは」

パネマ「パネマの家よ」

ナツヤ「わわわっパネマちゃん」

パネマ「そういえばミナミちゃんのスタイラーがないけど……」

ナツヤ「それは……ナツパーズに奪われたんだ……」

タルガ「ななっ何!？」

ナツヤ「ファイヤーも目覚めて……ミッション……失敗です」

タルガ「……ミナミはまだ眠ってる……目覚めるまでちつと時間がかかる……ライウン山に行けサンダーも狙われる可能性が高い」

ナツヤ「はいっ」

ミナミ「ア……アタシ……も……行く……わ」

ナツヤ「ケガは?」

ミナミ「フッフアタシはレンジャーよあのくらい……平気よ……」

ナツヤ「聞いたか？サンダーが・・・」

ミナミ「もちろんよ」

レル「完成したよ2つのスタイラーでスペシャルスタイラーが・・・これはキャプチャされても気持ちが悪くなる事がなく命令するればなんでも聞く・・・本当にスペシャルなんだから・・・セメントすこいもの作ってくれたねえ」

セメント「いやいやレル様そんなことないですよー」

レル「これならレンジャーも・・・でもどう現われるか・・・」

ミナミ「ナツパース」

レル「あらレンジャースタイラーもない無防備ちゃん」

ミナミ「そんなことないわお・ば・さ・ま」

レル「ななななっスタイラー・・・」

ミナミ「普通のスタイラーをパネマちゃんが組替えてくれたの・・・本当はタルガのものなんだけどね」

レル「組替え・・・」

セメント「ライバル出現ですなー」

レル「レントラー」かみなり」

ミナミ「水溜りに・・・」

ナツヤ「でも負けない・・・」

レル「フフツ・・・」たいあたり」

ミナミ「きゃ」

ナツヤ「くっ」

レル「そのまま」かみなり」

ミナミ「み・・・水溜りに・・・」

レル「水は電気を通す」

バチイイイイン

ミナミ「キャアアアッ」

ナツヤ「くわああああっ」

レル「追い討ちに・・・マナフィ・・・」ハイドロポンプ」

ミナミ「でもチャンス・・・キャプチャ・オン」

レル「そう・・・思う?」

ミナミ「えっ・・・」

ナツヤ「伝わってない・・・どうして・・・」

レル「セメントが2つのスタイラーを大改造し組み合わせて・・・
キャプチャをしても伝わることのない・・・最強のスタイラー・・・
・アナタ達のスタイラーじゃ・・・パワー不足ってとこ」

ミナミ「そんな・・・じゃあ絶対伝わる事もないってこと・・・」

レル「レントラー」ほうでん」「
バチイイイン

ミナミ「きゃああああっ」

ナツヤ「くわあああっ」

ミナミ「パネマちゃんにボイスメール・・・気持ちが伝わらないの
」!

タルガ「なななっ何イ」

ミナミ「それが・・・おばさまが・・・」

レル「なんですって!!」

ミナミ「ナツパーズ三人組のレルがあああっ組換えとか・・・と

にかく大変で・・・」

タルガ「一時回避するんだ退却するんだ」

ナツヤ「くっ・・・くやしきミッションリタイヤか・・・」

レル「ホホホッ」

セメント「勝つたも同然」

タルガ「バカな」

ミナミ「何回もやっても効き目がなくて・・・」

ナツヤ「強力すぎる・・・これに対応するには・・・」

タルガ「強く気持ちを持つのだ」

ミナミ「えっ・・・」

タルガ「助けたい・・・そういう気持ちが強ければ伝わる・・・理

解しようという気持ちだ」

ミナミ「・・・それじゃダメよ・・・そんなんじゃ・・・だって伝わらなかったもの!!」

タルガ「それは気持ちが弱いからだ!!」

ミナミ「何よそれでみんな否定するの・・・?こんなスタイラーくれてやるわ!!」

ナツヤ「オイ!ミナミぶざけん!!・・・逃げる気かよ!」

ウクレレ「パイ・・・」

ポロロン

ナツヤ「!!」

ウクレレ「パイイイ」

ポロロンポロロンポロンポロンポロン
チカッ

ナツヤ「もしかして・・・」

ウクレレ「ぴつちゅ」

ポロロンポロンポロンポロンポロンポロンポロンポロン

ナツヤ「えへへ・・・なんか楽しくなってきた・・・そうかわかったミナミ!!」

ミナミ「音楽で・・・気持ちを伝える？」

ナツヤ「そっだよホラ音楽・・・綺麗な音色が聞くと心が和むだろ？そうすると・・・気持ちもほぐれて気持ちが・・・伝わるんじゃないかって」

ミナミ「そんなんで伝わってたら苦労しないわよ！！！！」

ナツヤ「・・・ミナミ・・・いままで甘やかしてたけど・・・もう・・・怒る・・・ミナミはそんなふうになってレンジャーになったのかよ！！最初は・・・」

ミナミ「うるさいわ！！！！耳障りよ」

ナツヤ「ミナミ・・・」

タルガ「ケンカをするくらいなら！！やめるレンジャーなんか」

ナツヤ「・・・すみません」

ミナミ「・・・」

タルガ「ミナミ・・・確かにキミは優秀だったかもしれないが・・・
・気持ちは・・・まったくダメだ右も左も分からない・・・素人だ」

「ミナミ」……」

レル「フフツサンダーも目覚めた……レンジャーサイン……バクフーン」

「ミナミ」アンタ達!!」

セメント「また来ましたね」

「ミナミ」またポケモンを苦しめてるわね解放してあげる」

レル「フンツレントラーで十分勝つ見込みでもたったかしら?」

「ミナミ」ウクレレ」

ウクレレ「ぴっゅ」

ポロロンポロンポロンポロロンポポポロロンポロロンポロロンポロロンポ
ロオン

レル「……?」ほづでん」

ミッション10パネマとレイラを救え！

ミナミ「タルガさん」

ナツヤ「大ケガしてる・・・病院は？」

イマチ「ないよ・・・あつたとしてもエドワードがケガの手当てに
回るくらいで・・・」

タルガ「たのむパネマと・・・レイラを」

ナツヤ「わかりました」

一台のカメラがとらえていた

レル「おもしろいじゃないか邪魔しまくるよ」

セメント「でもかわいそうな・・・」

レル「でもこれ・・・一体誰が・・・」

セメント「まさか・・・」

ドガイ「絶対いやだあああっ」

ナツヤ「タルさんが服が赤にも青にも見えたらしい・・・どっち
だろう・・・どっちもそこまでする悪いヤツとは思えない」

ミナミ「おばさまなら当たり前よ・・・ねっスイクンホラッ早くの
って滝の裏にあるって話でしょ」

ナツヤ「うー・・・」
バシヤバシヤ

ナツヤ「乗り心地が悪いっ」

ミナミ「ジャンプー」

ナツヤ「わっ」
バッシャン

ナツヤ「びしょぬれ・・・」

ミナミ「ホホッ・・・スリル満点よ　ホホッ」

ナツヤ「お前なあ・・・」

ミナミ「奥についたかしらアラ・・・ボイスメール」

パネマ「赤い扉の・・・きゃあああった・・・たすけ
ガッーーーーー」

ミナミ「なんて」と

ナツヤ「いそごう・・・イヤな予感がする」

ミナミ「あっおばさま!!アンタ」

レル「違うんだよ・・・アタシ達・・・そ・・・んな・・・」

セメント「いたたたっ・・・レル様」

ミナミ「どういこと!?!?」

セメント「パープルアイ様がすべて・・・を」

ミナミ「そいつに傷つけられたの?」

レル「ちょっと・・・一分ほど遅れたからね・・・そういえば・・・パ・・・
・ネマ・・・だっけ？あの子かなり・・・傷つけられてたよ・・・
・そのお母さん・・・もね」

ナツヤ「ヒドイ・・・ブルーアイもレッドアイもここまで・・・な
によりここまで傷つけるなんて許さない・・・ミナミー！」

ミナミ「ええっ」

レル「うっ・・・」

レルは倒れた

セメント「あっレル様！！！！しっかり」

ドガイ「どうし・・・よう」

ナツヤ「手当用の道具持って来てたんだ」

ミナミ「えっ・・・早く行こう」

ナツヤ「お前も・・・パープルアイと同じだよ」

ミナミ「わかったわよ」

パネマ「痛い……ママ」

レイラ「パネマ……」

パープルアイ「もっと知ってるでしょう」

レイラ「知らないわ本当よだからパネマを放して!!」

パープルアイ「オヤ……レンジャー」

ミナミ「パネマ……ちゃんヒドイ……」

ナツヤ「なんてことするんだ」

パープルアイ「何故ここにこれたのでしょうか三人に動きを封じるよう命令したのに」

ナツヤ「かなり傷ついていた三人はすべて話したよすべていきさつを……」

パープルアイ「しょうもないヤツら……」

ナツヤ「許さないぞ」

パープルアイ「出ていけいものども」

ミナミ「なんて数……キャプチャ・オン」

キイイイン

パープルアイ「まったく薬を投入して強くするか」

ミナミ「なっ……」

パープルアイ「副作用で死ぬけど」

ナツヤ「お前……って落ち着くんだ」

ミナミ「数が多いすぎ」

ナツヤ「オレはパネマちゃん達を助ける」

タルガ「す……まな……かつ……た」

パネマ「パパ……」

レイラ「くっ……ご迷惑かけてすみません」

ナツヤ「いえ……オレ達はフリーザーの目覚めを防ぎます」

レイラ「そのことなんだけど……3匹が目覚めると空中要塞が復

活して・・・世界が・・・いたっ

パネマ「ママ・・・無理しないで」

レイラ「きつとパープルアイにナツパーズは操られた・・・真のボス」

ミナミ「・・・」

ナツヤ「三人も利用されてたのか」

ミッション11フリーザーを守れ！

ミナミ「リゾートは最高だけど・・・寒いー」

ナツヤ「山だもんな・・・でも平気平気服は防寒対策してるんだから」

ミナミ「後先考えないタイプねー」

レル「れれれレンジャー」

ミナミ「おばさま」

レル「そんな薄手の服じゃあ・・・死ぬわよ」

セメント「この厚手の服は動きにくい上に寒い」

レル「仕方ないだろう・・・グロッキーじゃなくてボヤッキー・・・あっ違った・・・ハッヒエール」

セメント「セメントですって」

レル「そうそうってレンジャーどうやったたらそんなにドンドン進めるんだよユーフォー（ダダフライ）の方が早いのに」

ナツヤ「この服は防寒対策されてる熱さにも負けず冬の寒さにも負けず・・・西に・・・」

ドガイ「不正がはびこるならばかけつけ叩いてぶっつぶし」

セメント「東に悪がのさばるならばやめなさいよと肩叩く」

レル「平成の世にキラリと輝く三つの星」

セメント・ドガイ「天に代わって悪を……」

レル「シャラップ」

セメント「いまさら隠しても2話でほとんどバレてますよ」

レル「わざわざやることないじゃないかとにかく先に行ってるよー」

ミナミ「何？今の口上は？」

ナツヤ「確か怪盗きらめきマンの刑事役の……」

ミナミ「やたらとあっさり言ったわね」

ミナミ「パ……パープルアイ」

パープルアイ「ボス」

????「遺跡へ導きますパーティやりましょう……ミナミさん
ナツヤさん」

ナツヤ「誰だ姿を見せる」

????「ドロップ島もポケモン達パープルアイもるともやつざきに」

ミナミ「キャプチャ・オンって……ウクレレ……そうよね
・ようし音楽和ませてあげて」

ポロローンポロンポロンポロンポロロロロポロロポロロ
ローーン

ミナミ「キャプチャ・オン」

ナツヤ「まとめて……」

レル「……遺跡……まさかおうごんのヨロイカブト……フ
ツアタシ達はきつと不老不死になれるんだよ」

セメント「わわっ」

レル「フフフツ……ホホホホホツこれでアンタの方が先に死
ぬ……おばさんはアンタね」

ミナミ「アンタ達……そうとう悪党じゃない」

レル「悪玉じゃないと……アタシ達が善玉になるにはアンタ達が
悪玉で……ねえセメント」

セメント「完璧にバレてますからアクダマンとして殴られた

レル「コホンじゃあねー」

ミナミ「……」

タルガ「とにかく向かうんだ」

ミナミ「了解よ」

ナツヤ「了解しました」

ミッション12 空中要塞を突破せよ！ (前書き)

超長いよ

ミッション12空中要塞を突破せよ！

ミナミ「遺跡……」

????「きゃーーーーー」

ナツヤ「悲鳴……誰なんだ……」

ミナミ「雪山でアタシ達に呼びかけていたのは……悩んでたって仕方がないくわよ」

ミナミ「!?エドワード……アックス……ドレス……マジック……!?!どうして」

レル「真の黒幕はこの人達なんだよ昔から黄金のヨロイカブトについて調べて……不老不死のヨロイカブトを見つけたってわけさ」

ナツヤ「そんな……エドワードさんはお医者さんなんにみんなに慕われてるのに」

エドワード「そんなの私の仮の姿さ……」

ミナミ「このために・・・このためにポケモンが・・・人々が・・・
どんな思いだったか・・・アナタにはわかるはず・・・」

レル「お前達空中要塞に乗り込みに行こう」

セメント「ワレワレサッサー・・・マージヨ様・・・じゃなかった
ドロンジヨ様・・・じゃなくてムージヨ様・・・違う・・・アター
シヤ様・・・違う・・・ハッルージユ様」

レル「アンタも人のこと言えないじゃないか・・・レル様だよ！！
！」

セメント「あーあーごめんなさい（同じじゃなかった？）」

レル「ドガイ行くよ」

ドガイ「ワレワレサッサー」

ミナミ「待ちなさい！」

レル「レンジャーサインメタグロス」「サイコキネシス」
ミイイイイン

ミナミ「動けない」

ナツヤ「くっ・・・どうして・・・みんな町の人を笑顔にさせて
たじゃない不老不死になったて・・・ダメなんだ！世界危機にする
なんて」

ドレス「口答えさんね若いのだから命は大切にしなさい」「コメント

パンチ「」
ドドッ

ナツヤ「ぐづっ・・・」

ミナミ「ナツヤー!!」

ドレス「ラスターカノン」
ドガアアアン

ミナミ「きゃあああつくっ・・・待ちなさい」

ナツヤ「出て来いムクホーク」

ミナミ「行くっ」

レル「空中要塞のバリアと・・・3匹のバリア」

ナツヤ「あれは・・・ファイヤーにサンダーフリーザーだ」

ミナミ「一時回避よ」

ナツヤ「ああっ」

ミナミ「メタグロス・・・キャプチャ・オン」

ミナミ「!?! ドロップ島が・・・消えた」

ウクレレ「プイーーーー」

ナツヤ「うつ・・・ヒドイ」

タルガ「バリアを消すにはホウオウを呼び出すおまじないの道具虹の精の灰を手に入れた・・・後は虹の祭壇はどこにあるかだ」

レイラ「大急ぎで調べてるわ」

ミナミ「アタシ達に何かできないの？」

タルガ「・・・」

ナツヤ「どうする？地方で1番小さい地方でも海の深海とかだったら・・・」

ミナミ「深海・・・ねえアタシ達がレッドアイの攻撃を受けたとき・・・かすかに見えなかった？遺跡のような・・・祭壇が」

ナツヤ「いいじゃん・・・でもあそこどこだろう」

ミナミ「記録はタルガ・・・さんのものアタシのだったら・・・」

ナツヤ「どこをとんでいたか？さえわかれば・・・」

ミナミ「くっ・・・一体どうするの？」

ナツヤ「・・・ドロップ島付近・・・手当たり次第に捜すか」

ミナミ「チッ・・・それしかないようね」

ナツヤ「見つかった？」

ミナミ「ううん・・・やっぱ時間かかるわ」

ナツヤ「でもやるんだオレ達の手で」

ミナミ「レンジャーだもの・・・もちろんよ」

5時間後

ミナミ「あったあ・・・やった見つけた」

ナツヤ「虹の精の灰だよ」

ピカ「ーーーーーッ

ミナミ「きゃ・・・きゃああああっ」

ナツヤ「わああああっ」

ナツヤ「あれホウオウじゃない？」

ミナミ「行くわよキャプチャ・オン」

キイイイン

ミナミ「キャプチャ完了よー！ーホウオウ・・・バリアを消して」
シュパアアアン

ナツヤ「ミナミ・・・ムクホークで行こう」

ミナミ「うん」

エドワード「ドレスアックスにマジック・・・レンジャーを足止め
しろ」

ドレス「簡単」

アックス「楽勝」

マジック「つまんないの」

エドワード「・・・」

レル「でもお気をつけてとても・・・」

エドワード「お前達とは次元が違う」

ミナミ「真中のの部屋・・・開かないわ・・・」

ナツヤ「なあ・・・部屋が三つもあるよ」

ミナミ「本当ね・・・開けるカギになったり・・・」

パネマ「おぉーい」

タルガ「手助けだ」

ミナミ「えっ・・・」

タルガ「電源が切れた時助けてやる」

ナツヤ「ミナミ・・・あの部屋にしよう」

ミナミ「あっ・・・れウクレレがない？」

ナツヤ「ピチユーー！！！！」

ミナミ「アタシ探す・・・って雲の上ええええっ」

ナツヤ「すっげえ・・・」

ミナミ「こんな時に前向きで」

ナツヤ「前向きは落ち着くぜ・・・でも・・・不自然なボックス

ポケモンで壊したら?」

「ミナミ」うっ・・・ええっ
「
バツコーン

ウクレレ」ぴっちゅ

「ミナミ」ううーん良かったあっ

マジック」やりますな

「ミナミ」マジック

マジック」クロバット」エアスラッシュ」
「
ドドドッ

「ミナミ」きゃああっ

マジック」」あくのはびじ

「ミナミ」きゃああああっ

ナツヤ」わあああっ

マジック」休みませんよ」ちよっおんぱ」
「
キイイイイイインギウワアアマン

「ミナミ」きゃああああっ

ナツヤ」混乱してーー

マジック「かせおし」
ひゅっおおおおっ

ミナミ「きゃー」

ナツヤ「うわあああっ」

マジック「行き着くヒマもない・・・なんたって・・・下は雲じゃない空なのだから」

ミナミ「きゃあああっ」

ナツヤ「くっ・・・ミナミ落ち着くんだここは異空間部屋・・・クロバットの「ちょうおんぱ」によって混乱してるんだ・・・そこここはただの部屋だ目を覚ますんだ」

ミナミ「あつね・・・耳をふさぐと・・・」

ナツヤ「ヤツは気づいてない・・・今が絶好のチャンス」

ミナミ「キャプチャ・オン」

マジック「なっ・・・」

ミナミ「ハア・・・ハア・・・手ごわかった・・・音に惑わされて・・・ナツヤの超前向きが助かった」

パネマ「充電完了・・・がんばって」

ミナミ「ええっ」

ミナミ「何・・・ボタンの部屋？」

ナツヤ「キャプチャしろってことじゃない？」

ミナミ「キャプチャ・オン」

ナツヤ「ボタンが・・・」

ミナミ「コツが分かった・・・」

アックス「やはり小細工は通用なかったか・・・」

ミナミ「アックス!!!」

アックス「しかしコイツは一筋縄ではいかない破壊の支配者・・・
レジギガス」

ナツヤ「えっ……」

ミナミ「やられたフリなんて得意中の得意よお・じ・さ・ま」

アックス「ぐっ……」

パネマ「充電完了……でもこの扉……不思議な紋章が……」

ミナミ「……」

ミナミ「なあにここ迷路みたい」

ナツヤ「あつ待って」

ミナミ「きゃーー」

ナツヤ「ミナミ!？」

ミナミ「あついたたた……まったくもう……」

ナツヤ「大丈夫だった？」

ミナミ「うん・・・まったくヒドイことになったわ」

ナツヤ「・・・・・・・・」

ドンッ

ミナミにぶつかった

ミナミ「もうっ何すんによナツヤ！！！」

ナツヤ「あっゴメン」

ガッタン

ミナミ「岩・・・一歩遅かったら死んでるじゃないのよ！！！」

ナツヤ「ごめんごめん謝ってるじゃん」

ミナミ「・・・奥に来た・・・ってナツヤ！！！」

ナツヤ「もうだまされないぞ偽者のミナミ」

ミナミ「ハア？何バカみたいなこと」

ミナミ？「もう1人のアタシめさっさと出てけ」

ミナミ「アンタ誰アタシのかっこしてウクレレまで・・・・・・・・誰なのよ」

ナツヤ「えっミナミが2人？じゃあ1番前のミナミ・・・・・・・・」

ミナミ「1番前って・・・」

ナツヤ「パネマは女の子？」

ミナミ「うん」

ナツヤ「そのスタイラーはミナミの？」

ミナミ「ううん」

ナツヤ「最初に戦ったのは2人組み？」

ミナミ「三人組」

ナツヤ「やっぱりこっちがミナミだあっちは全部間違ってたんだから」

ドレス「仕方ない・・・メタモン」

ミナミ「ハア？」

ドレス「ナメチャあダメよ・・・ライコウ」

ナツヤ「なっ・・・」

ドレス「10万ボルト」
「バババツ」

ミナミ「わっ」

ドレス「続いてエンテイ」「かえんほうしゃ」「

ミナミ「きゃああああっ」「

ナツヤ「うわあっ」「

ドレス「スイクン」「ハイドロポンプ」「

ミナミ「きゃああああっ」「

ナツヤ「なっ・・・なんて相手だこんなのとまとも」

ドレス「ねえすごいでしょう」

ナツヤ「ミナミどうする?」

ミナミ「いいわ降参するわ」

ドレス「本当?」

ナツヤ「何言ってるんだよ」

ミナミ「だって・・・どうせ負けるもの」

ドレス「そうよそうよ」

メタモンにもっとだ

ミナミ「キャプチャ・オン」

ドレス「ええっ」

ミナミ「降参なんて思う？ホホホッ」

パネマ「充電完了」

ミナミ「もしかしてレンジャーサイン？
キイイイン

ナツヤ「やった……」

ミナミ「行こう奥へ」

エドワード「来ましたな」

ナツヤ「バカなことやめる」

エドワード「私はバカか？そんなことない不老不死をすれば世界のみなさんにもそうすることができる」

タルガ「違う！みんな死ぬまでを一生懸命生きてるんだ」

レル「それが永遠の若さだったら話は別なんだよ……それなら文句いわないさ」

エドワード「老いには勝てない……」

????「ご老人よくやった」

ミナミ「パープルアイ」

パープルアイ「これで思い起こすことなくミュウツィを使えるよダ
ークホールに飲み込んでおくれ」

タルガ「ミュウツィの様子がおかしい・・・やめろ」
きゅっくゅっくゅっ

パネマ「パパーーーー!!!!」

パープルアイ「そしてこの女にやっていいんだな」

レル「!?!」

ルート「ああっ」

レル「ルート!」

ルート「レル・・・フフッ」

セメント「あれが婚約者」

ミナミ「こんなおばさまと結婚するつもり? やめたら」

レル「カチン」

ルート「ああっ・・・そうしておじやな」

レル「えっ・・・ルート? い・・・今」

ルート「むしろ邪魔な存在だ」

ナツヤ「……………」

ルート「とてもかわいく美しい世界の美女がいてね…………オレはレルと付き合ってたことがバレ分かれてしまったお前がいたから」

ミナミ「アンタがおばさまと付き合っからよ」

ナツヤ「(ミナミらしいフォロー)」

ルート「だからお前を消したい…………ミュウツァー!!!!」

レル「ルート…………どうしてお前…………」

ルート「やれ」

ナツヤ「危ない…………」

しゅわわわああん

ミナミ「ナツヤ!!」

レル「なっ……………」

ルート「次ははずすか」

セメント「レル様」

ドガイ「レル様——」

レル「お前達!！」

ミナミ「キャプチャ・・・」

ルート「無駄だ「サイコネシス」
キイイイン

ミナミ「ぐっ・・・」

ルート「「はどうぞだん」

ミナミ「きゃあああっ」

パネマ「ああっ・・・」

ミナミ「おばさま・・・イエ・・・レル・・・パネマちゃんを・・・
お願い」

レル「・・・」

ミナミ「みんなを・・・アタシが・・・助ける・・・そして変わる・・・
今気づいた・・・いくら悪人とはいえ人の心を傷つけたらダメ・・・
助けるみんなを」

ルート「「サイコーウェブ」

ミナミ「ぐっ竜巻!？」

ギユウワアアアン

ミナミ「ぐっ……」

ルート「サイコネシス」

みゆ「わあああん」

ミナミ「きゃあああつ意識が……もろろつ……と……
・し……て……き……た……ア……タ……シ……
・に……は……ダ……メ」

パネマ「負けちゃダメ」

ミナミ「パネマちゃん……キャプチャ・オン」
キイイイン

ルート「なっ」

パープルアイ「そんな」

ミナミ「みんなはどこー!？」

レル「セメント達はどこへやったのさ」

ルート「すみませんでした」

ゴゴゴゴッ

ミナミ「これは……空中要塞が沈んでる……早くしないと……
ホウオウレンジャーサイン」
キイイイン

ナツヤ「えっミナミ……やったの?ミナミが」

パネマ「パパー」

タルガ「……パネマ」

セメント「ああっレル様無事でしたか」

レル「当たり前な事いうんじゃないよ！アタシをなめてるのかい？」

ドガイ「良かったっ……」

レル「そ……そんなにアタシをナメたいかい」

セメント「いえいえ」

レル「丹平達じゃなかった……ヤッターマン……じゃなくてゼンダマン……違ってオタスケマン違う……ヤットデタマン……イッパツマン……イタダキマン……きらめきマン……」

セメント「レンジャーポケモンレンジャー」

レル「そうそうポケモンレンジャー敵としてまた立ち向かうからね覚えておきな」

タルガ「最高ミッションクリアで世界の危機を救ったからな
レンジャーポーズを見せた」

タルガ「うんっ最高のレンジャーポーズ」

ミッション12 空中要塞を突破せよ！(後書き)

最終回で

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6097k/>

ポケモンレンジャー物語

2010年10月9日06時21分発行